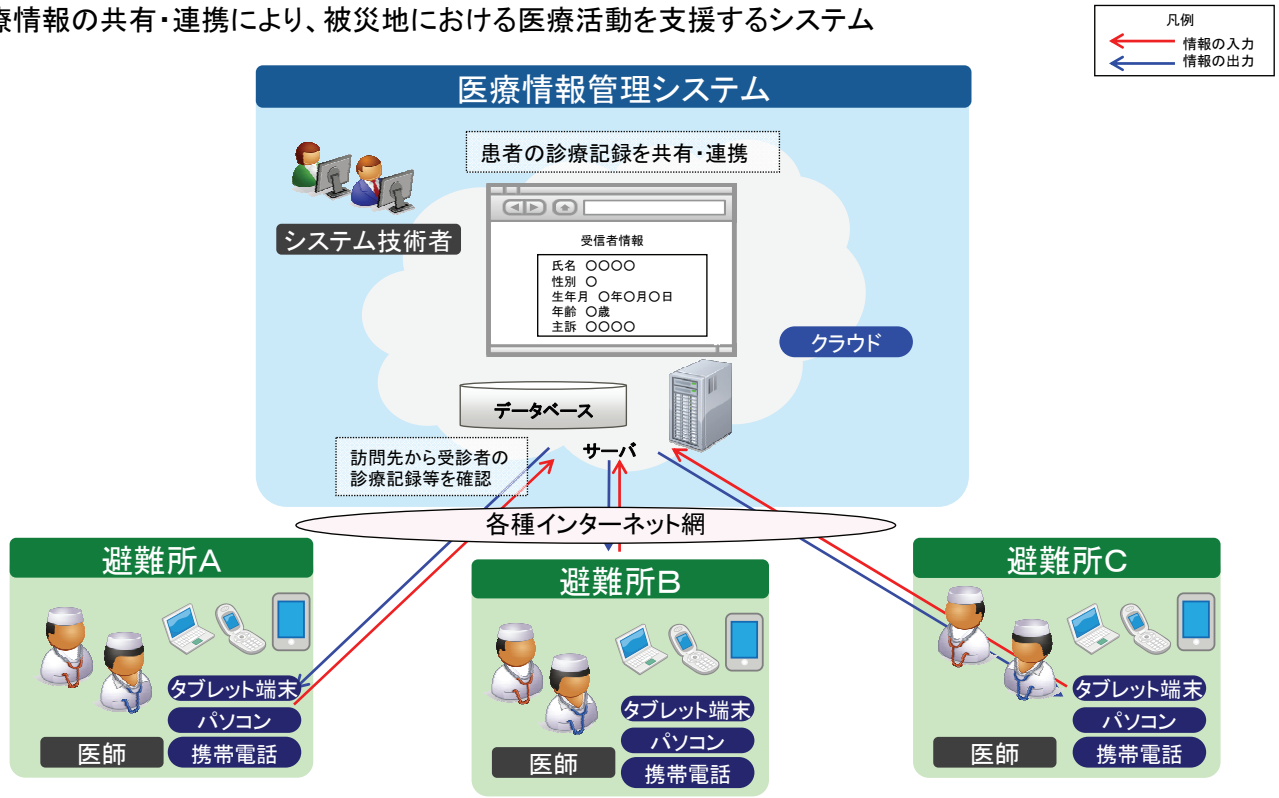


# 事例6 医療情報の共有・連携

■ 医療情報の共有・連携により、被災地における医療活動を支援するシステム



## 解説

### 1) 背景・ニーズ

効果的な診察を行うためには、過去の病歴や投薬歴といった診療記録が不可欠ですが、避難所や仮設住宅での診療記録を被災地でどのように管理するかが問題となります。

特に、支援を行う医療従事者は入れ替わりが激しいため、医療情報を容易に引き継げるようにすることが重要となります。また、医療情報は個人情報にあたるため、厳重に管理する必要があります。

### 2) 事例の概要

- 被災者の医療情報が、クラウド上で一元管理されます。これにより、医療従事者が避難所や仮設住宅などで巡回診療を行う際も、患者の診療記録を携帯端末などからいつでも・どこでも参照することができます。
- 「巡回診療支援システム」(NTTデータ)では、福島県内全域の避難所住民の診療記録(紙)が電子化されました。これにより、福島県立医科大学の医師等が各避難所を巡回する際に、被災者の診療記録を、タブレット端末などから容易に参照できるようになりました。患者約2,700人分のデータが登録され、避難所での診察等に活用されました。

## 事例のメリット

### ○情報の共有・管理が容易にできる

診療記録等の情報が一元管理されるため、いつでも・どこでも必要な情報を共有でき、医療従事者間の連携をスムーズに行うことができます。

### ○サービスの導入・利用が容易にできる

システムがクラウド基盤上に構築されるため、医療者側でシステム基盤を持たなくてもサービスを容易に導入・利用することができます。

### 活用に向けた留意点

医療情報は個人情報のため、参照できる医療従事者を限定するといった厳重なセキュリティ対策が求められます。